

数学や物理が得意なことから、得意分野を活かせる建築を志し、職業能力開発総合大学校に進学。研究を通じて「工学的に未知な課題に対して、仮説を立てていろいろな角度からアプローチして前進させるため思考した数々の経験は、今も生かされている」という。

顧客の要望を構造設計課題として実現へ

2012年4月、類設計室に入社。「初めは誰も初心者」という気持ちで、最初は設備部の仕事に挑戦した。2014年夏に構造部に異動したが、「他部門を経験したことで統合的な視点で建築を見ることができるようになった」。構造部では東京大学（柏Ⅱ）産学官民連携施設、本の森ちゅうおうなど、数多くのプロジェクトの構造設計を手掛けてきた。構造設計を初めてすぐに、故渡辺邦夫氏が開催した「日曜学校」を受講する機会があり、「大きな衝撃を受けた。その後、単に法や基準を守るだけでなく、構造設計者として現実事象に立脚しながら設計に取り組むようになった」と当時を振り返った。一方で顧客からの要望を重視し、「今の時代は解析や材料、施工技術などが成熟化してきたので、新しい技術を求めることだけでなく、顧客からの要望を受け止めて具体的にどのような構造設計課題に落とし込んでいくかが重要になると感じている。そのため、技術力だけでなく部分でも成長していく必要がある」という。

ものづくりは人づくりから

今年で入社12年目を経過。「類設計室では、役職に関係なく組織作りに取り組む社風があり、ものづくりは人づくりから取り組まなければならない」という考えの下で、人材育成にも力を入れている。そこで培ったことは設計力の向上にもつながったという。JSCAなど社外活動についても、人づくりに繋げていきたいと積極的に参加している。また、類設計室が始めた「こども建築塾」を、「私の子供が通う小学校でも開催し、好評だった」と手応えを感じている。今後については「今できるさまざまな活動や関係を広げていくことで、生み出される魅力的な価値を創造していきたい」と抱負を述べた。

文・写真：鈴木康友



人 Human

黒川 慧さん（類設計室 東京設計室 構造部 課長）
SATOSHI KUROKAWA

1987年生まれ 栃木県出身 2006年栃木県立鹿沼高校卒 2012年職業能力開発総合大学校建築工学研究科卒 同年類設計室入社 現在、東京設計室 構造部 課長 構造設計一級建築士 一級建築士 建築設備士 JSCA法制委員会所属 主な作品は「東京大学(柏Ⅱ) 産学官民連携施設」、「荒川区立尾久図書館」、「本の森ちゅうおう」など